

平成28年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」事業概要(大館市)

1 市の概要(人口 75,064人)※平成28年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(平成28年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1園	0園	7園	11か所	0園	0園	17校

その他の保育施設 へき地保育所7 児童館4 小規模保育1 事業所内5 認可外3

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 社会や保育の変革に対応するためには、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実、保育課程の見直し、市としての研修・指導体制の構築が必要である。</p> <p>(2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解することが難しい。</p> <p>(3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
<p>将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。</p>	
主な内容(3年間)	
<p>(1) 教育・保育アドバイザーの配置 教育委員会と子ども課へ配置。子ども課の保育アドバイザー、教育委員会の就学支援員とチーム体制で課題の把握と全施設への巡回による指導、研修会の企画。</p> <p>(2) モデル園(基幹保育園5)の幼児教育センター的機能の確立 基幹保育園の研修リーダー(研究推進委員会)による保育の質の向上、就学までに育てたい力の明確化、研究内容の成果物作成。</p> <p>(3) 教職員の資質向上、各園の研修リーダー養成のための研修の充実 県教育委員会の各種研修への積極的参加、個の課題に応じたオーダーメイド研修、市内全保育園のミニ公開保育の実施。</p> <p>(4) 教育・保育課程、指導方法における小学校低学年との系統性の研究 研究推進委員会による調査・研究、仮称「幼保小連携プログラム」の作成。</p> <p>(5) 園と小学校の教職員を対象にした専門性向上のための研修会の開催 互いの授業・保育研究会への参加、講演会・実践発表会等の合同研修会。</p> <p>(6) 研究成果の発信、普及 研修教材冊子の作成・配付。モデル児による映像資料の作成。公開保育による成果の発信。</p>	
年度別重点	
平成28年度	<p>研究推進委員会による調査・研究。 教育・保育アドバイザーによる全施設の巡回指導と小学校低学年の実態把握。 モデル園による公開保育。専門性向上のための研修会の開催。</p>
平成29年度	<p>1年次の研究成果の周知。教育・保育アドバイザーによる全施設と小学校低学年への巡回指導。幼保小連携の課題の明確化と連携プログラムの試作。モデル児の追跡調査。</p>
平成30年度	<p>モデル園の幼児教育センター機能の運用。教育・保育アドバイザーによる巡回指導と市としての研修体制の確立。モデル児による検証。幼保小連携プログラムの発行。</p>

4 平成28年度の具体

目的				
研究推進委員会の設置と教育・保育アドバイザーの配置により、市としての就学前教育と幼保小連携における課題を把握するとともに、就学前における教育・保育で育てたい力を明確にする。				
実施内容				
<p>(1) 教育・保育アドバイザーの配置 教育・保育アドバイザーを2名配置し、全施設の巡回訪問を通じて各施設の課題を把握するとともに、園内研修会に参加し情報提供や指導助言をする。小学校低学年の授業を参観し、連携の課題を把握する。(各種研修用資料の収集と作成を含む)</p> <p>(2) 研究推進委員会の開催(月1回) 公立保育園5園の研修リーダーと子ども課・教育委員会が市としての就学前教育の指針作成に向けて調査・研究をする。他施設の公開保育や小学校の研究授業に参加することによって、市としての課題を把握するとともに、毎月の学習会で専門性の向上に努める。</p> <p>(3) 専門性向上に向けた研修会の開催 ・講演会 7/27 横山浩之教授(福島医科大)「発達障害児にも周りの子どもにも有効な支援～園・学校で活用できるペアレント・トレーニング」 10/17 内田伸子教授(十文字大)「子どもの創造的想像力を育む保育者の役割～どの子ども伸びる援助やことばかけをめぐって」 「考える力を育てることばの教育～メタ認知を活用する授業デザイン」 ・実践発表 1/6 大館市教職員研究実践発表会 ・保育実践力向上研修会 9/29 奥山順子教授(秋田大) ・年齢別担任研修(8回)、発達支援セミナー(2回)、オーダーメイド研修(5回)、他</p> <p>(4) 研究成果の発信、普及 ・(仮称)「育ちの姿」(モデル児による映像資料)の制作と研修会での活用。 (仮称)「保育のスタンダード」(研修用教材)の作成と市内全施設職員への配付。 ・公開保育 9/29 たしろ保育園、12/2 城南保育園</p>				
検証・評価計画				
	内容	目標となる指標	時期	評価方法
1	教育・保育アドバイザーの配置	・教育・保育アドバイザーが市内全施設を訪問し、課題を把握したり、園のニーズに対応した指導・助言をしたりする。 ・小学校低学年の授業を参観・参加し、課題を把握する。	2月まで	訪問実績、訪問記録
2	研究推進委員会による調査・研究	・施設・小学校を訪問し、課題を把握したり、市としての就学前教育の指針を研究したりする。 ・研修リーダーの資質向上のための学習会を月1回開催する。年度末に、成果物(映像資料・研修用教材)を完成させる。	7月 10月 2月まで	参加人数 感想アンケート 月1回開催 会議録 成果物
3	モデル園での保育実践力向上研修会と研究成果の発表	・全施設に案内し、公開保育(5園)を実施する。うち2園は、保育実践力向上研修会として開催し、研究内容を発信する。 ・1年次の研究成果を市の実践発表会で発表する。	9月 12月 1月	参加人数、園数 発表回数、参加人数
4	講演会の開催	・2回開催し、全施設と小学校、他市町村へ案内する。	7月 10月	参加人数 感想

3 平成28年度の実施状況

(1) 教育・保育アドバイザーの配置

◇教育・保育アドバイザーの施設等訪問状況(平成28年7月～平成29年3月)								
	幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	*その他 保育施設	小学校	
施設・校数	1園	0園	7園	11か所	0園	20か所	17校	
訪問施設・ 校数	0園	0園	6園	11か所	0園	11か所	6校	
訪問回数	0回	0回	6回	36回	0回	18回	14回	
月平均訪問 回数	0回	0回	0.67回	4回	0回	2回	1.56回	
*その他の保育施設：へき地保育所7、児童館3、小規模保育1、事業所内保育施設5、 認可外保育施設3								
目的	教育・保育アドバイザーを2名配置し、全施設の巡回訪問を通じて各施設の課題を把握するとともに、園内研修会に参加し情報提供や指導助言をする。小学校低学年の授業を参観し、連携の課題を把握する。							
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○保育経験のある「幼児教育アドバイザー」は市教育委員会へ、小学校教育の経験のある「連携アドバイザー」は福祉部子ども課へ配置 ○主な業務内容 <ul style="list-style-type: none"> ・園、小学校への訪問 (県教育委員会、市子ども課に随行) ・園内研修会への参加 ・研究推進委員会への指導助言 ・各園の日常的な相談、指導助言 ・各種研修会への参加 ・研修会の講師 ・配属先への情報提供、施策への助言 ・県教育庁幼保推進課との連絡 ・研修資料の収集 等 		 <p style="text-align: center;">アドバイザーと一緒に保育の振り返り (ワークショップ型で)</p>					

(2) 研究推進委員会の開催(月1回)

目的	公立保育園5園の研修リーダーと子ども課・教育委員会が市としての就学前教育の指針作成に向けて調査・研究をする。他施設の公開保育や小学校の研究授業に参加することによって、市としての課題を把握するとともに、毎月の学習会を通して専門性の向上に努める。	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員による他施設への随行訪問(24施設)とその記録作成、報告 ・市の保育の課題を整理 →研修用教材・映像の作成 ・学習会(10回) 教育・保育に関する最新情報、 各種資料の読み合わせ、 教育委員会からの講話、 市外研修会への参加 等 ・オーダーメイド研修の企画・運営 (案内は市内全施設へ) 	 <p style="text-align: center;">小学校教諭が年長クラスを指導 (城南保育園分園のオーダーメイド研修)</p>

主催	期日	内容 (講師)	参加者
城南保育園	1/13	ふれあい伝承遊び (読み聞かせボランティア)	36名
城南保育園分園	8/9 1/12	保小連携「子どもの能力を引き出す環境」 (小学校教諭3名)	31名 23名
有浦保育園	9/12	運動遊びと発達 (県指導主事)	61名
扇田保育園	9/24	小児救急講習会 (小児科医)	28名
たしろ保育園	2/10	冬の遊び (社会教育主事)	28名

(3) 専門性向上に向けた研修会の開催

目的	実施状況																																								
<p>モデル園による保育実践力向上研修会や市内の教育・保育関係者を対象にした講演会を開催し、より多くの教育・保育関係者に保育参観や研修の機会を提供し資質能力の向上を図る。また、小学校教員との合同研修により相互理解を深める。</p>	<p>○講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/27 横山浩之教授 (福島県立医科大) 「発達障害児にも周りの子どもにも有効な支援～園・学校で活用できるペアレント・トレーニング」 ・ 10/17 内田伸子教授 (十文字学園女子大) I 「考える力を育てることばの教育～メタ認知を活用する授業デザイン」 II 「子どもの創造的想像力を育む保育者の役割～どの子ども伸びる援助やことばかけをめぐって」 ※市外参加者：8市町35名 <p style="text-align: center;">講演会参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>参加者の所属</th> <th>横山氏</th> <th>内田氏 I</th> <th>内田氏 II</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就学前施設</td> <td>42</td> <td>24</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>80</td> <td>23</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>25</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>高校</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>支援学校</td> <td>74</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>放課後児童クラブ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td>14</td> <td>20</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>医療・療育</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>241</td> <td>77</td> <td>136</td> </tr> </tbody> </table> <p></p> <p>小学校入学までに家庭と意識して育ててほしいことを語る横山氏</p> <p>○保育実践力向上研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/29 たしろ保育園 講師：奥山順子教授 (秋田大) 参加者：68名 ・ 12/2 城南保育園 講師：県教育委員会指導主事 (北教育事務所) 参加者：45名 <p>○市主催研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢別研修会 (6回) 講師：市保育アドバイザー他 参加者：167名 ・ 発達支援セミナー (2回) 講師：特別支援学校教諭 参加者：66名 	参加者の所属	横山氏	内田氏 I	内田氏 II	就学前施設	42	24	67	小学校	80	23	24	中学校	25	0	2	高校	1	0	0	支援学校	74	2	2	放課後児童クラブ	0	0	10	行政	14	20	26	医療・療育	5	0	5	合計	241	77	136
参加者の所属	横山氏	内田氏 I	内田氏 II																																						
就学前施設	42	24	67																																						
小学校	80	23	24																																						
中学校	25	0	2																																						
高校	1	0	0																																						
支援学校	74	2	2																																						
放課後児童クラブ	0	0	10																																						
行政	14	20	26																																						
医療・療育	5	0	5																																						
合計	241	77	136																																						

(4)研究成果の発信、普及

目的	教育・保育現場の様々な職種の職員に分かりやすい研修教材を作成し、教育・保育に携わる職員全体で共通理解を図る。			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 研修用教材の制作（*制作中） 「保育のステップ・わん」冊子 3月完成予定（B5版800部） 「育ちの姿」モデル児による映像資料試作DVDとして映像をまとめる予定 公立5園による公開保育 市内全施設・近隣の小学校へ案内し、認定こども園、認可外保育施設、へき地保育所等からも参加があった。 全園に小学校の管理職が参加 (2月には外部評価者として参観予定) 	公開園	期日	参加者
		城南保育園	11/15	36名
		城南保育園分園	8/4	35名
		有浦保育園	8/9	44名
		扇田保育園	10/12	34名
		たしろ保育園	10/28	*中止
*感染症のため取りやめた				

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策

(1) 教育・保育アドバイザーの配置

成果	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児教育・保育、学校教育それぞれの経験と専門性をもっているアドバイザーが連携して、園や学校を訪問しており、全園の研修にスムーズに受け入れられている。 アドバイザーが単独で訪問している指導案検討会や園内研修への事前指導、各種発表資料への指導は、より実践的な研修として有効性が高く評価されている。 公立5園の主任からなる研修推進委員会において共に研究を進める中での指導助言、他園の園内研修への同行により、次期アドバイザーの育成につながっている。 アドバイザーの記録や報告等により、各園、小学校の情報、実態が子ども課と学校教育課で共有することが可能となり、施策に生かすことができる。 市保育アドバイザーが県指導主事に同行することにより、子ども理解や保育の質について共通理解が深まり、県と同じ方向性をもって指導・助言にあたることができている。 アドバイザーは携帯電話で随時連絡がとれる態勢にあり、保育現場では気軽に相談や助言を求めることができる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はアドバイザーの研修と兼ねて、県教育委員会や市の保育アドバイザーとの同行が多かった。そのため、全体の訪問回数が確保できず、現場の要請に十分応えることができなかつた。 特に、小学校の授業参観は日程がとれず、参加が限られた。
改善	<ul style="list-style-type: none"> 市内の全保育施設39か所、小学校17校の研修ニーズや日常的な相談に応じるためには、アドバイザーが担当園・校を分担するなどして、1か所への訪問回数を確保して、継続的な指導ができるようにしたい。 市外の公開保育や研究会へ参加することで本市の課題を明確にする。 小学校入学期の実態把握のため、4月～6月には就学支援員とともに全小学校への巡回訪問を実施する。

(2) 研究推進委員会の開催(月1回)

成果	<ul style="list-style-type: none"> 子ども課と教育委員会が構成メンバーとして参加し、資質向上に向けた講話や研究推進に向けた助言をすることで、実務的な研修が継続的に行われている。 教育・保育アドバイザーに同行して、認定こども園やへき地保育所等これまで保育を参観する機会がなかった施設へ訪問できた。午後の園内研修にも参加することで、市内全体の子どもの育ちや保育の課題が見えてくると共に、委員一人一人の保育を見る目が養われてきている。 オーダーメイド研修の企画を通して、委員が研修会を立案・交渉・運営する力が養われている。
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究で培われつつある指導力を自園で発揮する自覚をもたせたい。 ・ 研修用教材の制作に当たっては、意図に添った映像収集が難しかった。保育の記録同様に視点にそって保育を見取ることが必要である。 ・ 小学校の授業参観、小学校教諭との合同協議に参加できる日が少なかった。
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進委員会としての研究成果を記録としてまとめ、各種研修会で積極的に発表することで、発信力を育成する。 ・ 来年度の研究推進委員会の構成メンバーを検討し、年間計画を作成する。 ・ 2年次として小学校との連携をテーマに、小学校1年生担任に連携の実際や意識調査等を行う。

(3) 専門性向上に向けた研修会の開催

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会には就学前教育関係者以外に、様々な校種の教育関係者が参加し、乳幼児期の教育・保育の重要性と子どもの育ちの連続性を再確認することができた。 ・ 子ども課が主催する各種研修会は、全ての就学前施設へ案内し、職種に関わらず参加できることから、非常勤や保育補助等が参加できる貴重な研修機会になっている。 ・ 公立保育園は外部に保育を公開しており、互いに見合いながら研修する土壌ができています。認定こども園やへき地保育所においても、学区の小学校からの参加も定着している。 ・ 講演会には校種を越えて多数の教職員が参加した。その後、市教育委員会で例年開催している「大館市教職員研究実践発表会」（1月）では、就学前から2題、小学校から「幼保小連携」の発表が1題あった。特に、「幼保小必見！ワンランク上の学級づくり」には、全19発表題中、最多の参加者（92名）となり、関心や意識の高まりが伺えた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実践力向上研修会の開催については年度初めに周知できなかつたので、認定こども園や児童館、認可外保育施設の参加が少なかった。
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会講師には、保育や授業も参観していただいた上で講演をしてもらうことで、講演内容をより本市の実態に添うものにしていく。 ・ 参加者の少なかった施設の研修ニーズや参加可能な時間帯・時期を聞き取るなどして、より参加しやすく工夫する。

(4) 研究成果の発信、普及

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会資料が学校現場で資料として活用されたり、保護者に配付されたりしている。市全体として乳幼児期の教育・保育の重要性が認識され、保育や子育てを充実させたいという共通の願いが強まった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修用教材作成にあたっては、映像の処理や印刷物の編集など専門的な技術を要するため、思うように進まず完成が計画より遅れた。
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次の研究成果については、大館市教職員研究実践発表会を通して、成果と課題を発信する。 ・ 来年度初めに、各園長会、施設長会で、本事業の周知と協力依頼をする。 ・ 研修用教材を活用し、市内全施設の全職員に向けての研修を数多く実施する。